

# 伊那小学校の教育構想

教育理念

学校は子どもたちにとってこころゆく生活の場、詩境でなければならない

教育の目標： 眞事（まこと） 眞言（まこと） 誠（まこと）

## 児童の目標

- こつこつ勉強する・・・大きな自分を作り上げるために、勉強をこつこつやり、しっかりと根をはる。
- 友がきをつくる・・・一人ひとりの友だちが、みな同じように伸びていくために、助け合い励まし合っていける友がきをつくる。
- 自分を大切にする・・・自分をありったけを出し、自分を大切にしていく。

## 教師の課題

### 1 『眞事』の教育

- 「事」を責め立て、具体的に事が何かはつきりさせる。
- 素材研究を尽くし、子どもの求めや願いと教師の願いの一致するところに立った題材を導き出す。
- 学年会を重んじ、子どもの側や素材や題材の側から「事」を責め立てて研究と実践に努める。

### 2 『眞言』の教育

- 子どもと教師、子ども同士に虚言がなく、眞実のことは思いやりのある言葉をもって接する。
- 正法眼蔵の児童愛に根ざし、子どもの「言（いこと）」をよく聞き、深く理解し、実（じ）（本質・眞なるもの）のある自分のことば責め立てて指導にあたる。
- 読み合わせ会を重視し、常に辞書を引き言葉の感覚を磨く。

### 3 『誠』の教育

- 「誠」とは『言（ことば）が成るんだなあ』※唐木順三先生の言葉
- 計らいの無いことばを発する子どもの眞の言葉を聞き取り、それを基に指導にあたる。
- 子どもの毎日の清掃、遊び、諸行事等、常に子どもと共にあり、子どもの眞のことばを聞き取る。

## 目標達成の重点

### 総合学習・総合活動

ものやことの中にある「眞事」は「何か」、それを求め合う具体的な活動づくりを総合学習・総合活動に見いだしていく。この中で豊かな学力が培われるものとする。

### みまよせ集会・みまよせ児童集会

「眞言」は、ことばを聞き、語る活動に現出する。集会活動を通じ、心を傾注し聞き取り、語り、考え合うことから具現を目指す。

### 清掃無言

無になって事に打ち込み自分を観る、こうした時の積み重ねの一つとして、「黙々」と取り組む清掃時間の「無言」を大切にする。

研究テーマ **内から育つ** —学びの道すじをたどり直しながら、自らを高めていく子ども—

## 各学級における教育課程(年間学習計画)の編成

教育の目標を総合学習・総合活動・教科・道徳・特別活動の中で、子どもたちがどう身につけていくか、これは一重に年間を見通す教師の眼力にかかっている。教師は、具体的な目標と活動年間計画を立てると共に、子どもの求めや願いに寄せ、常に修正しつつその具現に努めることが求められている。

1, 2年総合学習(含、道徳教育・特別活動)  
◎総合学習の題材を「自然」「社会」「言語」「教」「表現」などに求め、できるだけ全体にゆきわたるようにする。動物飼育・栽培活動・遊び・生活・年中行事などの中からの題材選定を大事にする。

3~6学年 教科学習・総合活動・道徳教育・特別活動  
◎総合活動は、教科などの学習の基盤になるという側面と、教科などの学習で得たものをそこで実際に生かし統合するという側面をもちながら、それが一体となっていく。ただし、総合活動と教科などの学習の無理な結びつけはしない。

けやき学年 生活単元学習(総合学習)・言語学習・教科学習・道徳学習・特別活動・自立活動  
◎障害の特性や程度を的確に把握して、学校生活のなかで個に寄り添った学習を展開する。自己選択、自己決定のできる学習や生活を作り自立的な力を育てる。

## 実践を支えるもの

### 信頼される職員集団づくり

- ・学年会を学習指導研究の主体とし、同僚性の高まりとともに指導の高まりを目指す。
- ・授業公開をもとに、お互いの指導法や学級づくりのよさを学び合う。

### 家庭との連携

- ・諸行事への積極的な参加
- ・評価アンケートの実施活用・各種ボランティア
- ・学級・学年懇談会・家庭訪問・親子レク・PTA
- ・学校日より、学年日より、学級よりの充実

### 地域社会との連携

- ・子どもを守る地域としての機能の充実(みまよせの子らを育てる会、安心の家、安全ボランティア)
- ・諸団体、サークル活動等による体験的な活動の充実
- ・外部講師としての招聘・異年齢交流 等

## 平成23年度の重点課題

- ①第33回公開学習指導研究会
- ②H23上伊那地区「幼年教育研究会」会場校
- ③安全教育の充実